

メッセージ

学習とは、自分の世界を読み取り 歴史を綴る権利です

新しい双葉の芽が
育ち始めています。福島県双葉郡教育復興ビジョン推進協議会座長
福島大学うつくしまふくしま未来
支援センター長(学長特別補佐)
人間発達文化学類教授

中田スウラ さん

早稲田大学大学院文学研究科教育学専攻博士課程単
位取得退学。現在の研究テーマは生涯学習。大学で
は教育社会学・社会教育を担当。震災時は他の大学
教員や学生とともに運動や物づくりを行う子ども支援学習
プログラム「土曜子どもキャンパス」を展開した。東日本大震災直後から、福島大学・人
間発達文化学類の学生たちと教職員は、
教育復興プロジェクトを始めました。ど
んな震災下の状況であっても、子どもた
ちの教育・学習を守り、その成長を応援
したいという多くの願いからの始まりで
す。そんな経験から「双葉郡教育復興ビジ
ョン推進協議会」の座長を務める機会を
得ることができ、学生たちと一緒に「子
供未来会議」や「ふたばワールド」、「ふ
るさと創造学サミット」等にも参加させ
ていただいています。確かに、大震災は
甚大な被害をもたらしました。しかし、
その経験から、次の社会と未来を育てる
「新しい双葉の芽」が育ち始めています。
地域の課題に向かい合い、自分たちのこ
れまでの暮らしを見つめ直し、代々つな
いできた歴史や文化をひもときながら、これからどんな社会を創造していくのか
を真剣に問い行動する「アクティブ・ラ
ーニング」が開始されています。「ふるさと創造学」はその趣旨にもと
づき2014年度から開始され、2015
年度から「ふたば未来学園」に継承され
ます。新しい課題解決学習の展開が新し
い社会創造の鍵となります。改めてユネ
スコ学習権宣言(1985年)に示された
理念、すなわち、「学習権とは読み書き
の権利であり、問い続け、深く考える権
利であり、想像し、創造する権利であり、
自分自身の世界を読み取り、歴史をつづ
る権利である」とするその理念を再確認
します。今、新しい歴史を創造する主体
として、双葉の子どもたちは歩みを進め、
その歴史的瞬間に私たちは立ち会って
います。この誉れ高い経験から、未来が創
造される過程を歴史に刻みましょう。

問い合わせ

ふたばの教育や、この冊子の内容に関する
お問い合わせは…

福島県双葉郡教育復興ビジョン推進協議会 事務局

〒960-1296 福島県福島市金谷川1番地
福島大学人間発達文化学類支援室内
☎:024-504-2886 FAX:024-548-3181
ホームページ: <http://futaba-educ.net/>または

感想やご意見、今後取り上げてほしい内容なども、ぜひお寄せください!

各町村の教育活動・学校に関する
お問い合わせは…

各町村の教育委員会

川内村教育委員会 ☎:0240-38-3805
葛尾村教育委員会 ☎:0247-61-2850
浪江町教育委員会 ☎:0243-62-0301
大熊町教育委員会 ☎:0242-26-3844
楢葉町教育委員会 ☎:0246-25-5561
双葉町教育委員会 ☎:0246-84-5210
富岡町教育委員会 ☎:0120-33-6466
広野町教育委員会 ☎:0240-27-4166

編集後記

- この広報誌を読んでいる皆さんが心穏やかであることを願っています。記事にはその思いが込められています。(庄)
- 「福島に未来という名前がつく学校ができるらしいよな」というCMを見ました。子どもたちの未来ために!(荒)
- 福島に引っ越してもうすぐ1年。大地の恵みと人との出会いに感謝。今年も笑顔で元気にいきましょう!(野)
- 双葉郡の子どもたちのために、という気持ちで福島に来ましたが、いまは双葉郡の子どもたちとともに、と思っています。(赤)
- 海士町への研修旅行に同行。子どもたちの力と可能性は、大人たちが思うよりずっと大きいことを実感しました。(山)
- 「土地は先祖からの授かりものではなく、子どもたちからの預かりもの」と聞く。何を為すか考える日々。(貝)

ふたばからの
おたよりです。

特集

ふたばの学校の今。
各地で元気に学んでいます!ふるさと創造学レポート
——大熊中、富岡第一・第二小



大熊町

熊町・大野幼稚園、
熊町・大野小、大熊中

学ぶ喜びを 胸いっぱい

2011年4月16日、会津若松市で、全国児・児童・生徒数合わせて708名が、学習を再開しました。誰も経験したことのない、まったく「ゼロからの再開」でしたが、子どもたちや教員の頑張り、保護者、会津若松市民の方々の熱心な応援のお陰で、今では、ほぼ以前のような学習環境で生活しています。

「読書活動の充実を中心とした、学び合い、育ち合う教育の展開」を基本として、将来を見据えて、コンピューターなどのICT機器を使った教育にも力を入れています。

上・中学校の総合的な学習の時間では、一人ひとりがテーマを持って研究に取り組みます
下・震災前から力を入れてきた読書活動



子どもたちは
元気に学んでいます！

県内各地で開校している

ふたばの学校の今。

2011年3月11日は、中学校の卒業式が行われた日でした。あれから4年の歳月を数えています。それぞれが場所を移した8町村の学校は、今どこでどうしているのでしょうか。

このページでは、各地で教育活動を続ける学校と、元気に学ぶ子どもたちの様子を紹介します。これらの学校の営みからは、これからの双葉郡の教育の未来の姿が見えてきます。



三春校の校舎。幼・小・中で連携した教育活動を進めています

富岡町立幼・小・中学校は、富岡町と同じように桜の名所として知られる三春町に、2011年9月に再開しました。富岡幼稚園・富岡一小・富岡二小・富岡一中・富岡二中合わせて約60名の子どもたちが同一施設内で元気に活動しています。

一人ひとりへのきめ細やかな指導や地域との交流を基盤に、幼・小・中が連携して、子どもたちと教職員が相互に交流しながら有意義な学習を展開しています。詳しくは各校のブログをご覧ください。

富岡町

富岡幼稚園、富岡第一・第二小、
富岡第一・第二中

大好きな桜が 咲く町で学ぶ



富岡高校(猪苗代サテライト)、
ふたば未来学園高校(猪苗代校舎)
※2015年4月開校

熊町・大野幼稚園
熊町小学校・大野小学校
大熊中学校
会津若松

川内村

かわうち保育園、川内小、川内中

ふるさとの豊かな 自然の中で

川内小学校は、2012年度に帰村し、学校を再開しました。児童数は29名に増え、温かい地域の方々に支えられながら、「ふるさとを思う心と貢献できる力」を身に付けることができるよう、元気に教育活動を行っています。

川内中学校は、「未来を創る」の学校目標のもと、創意工夫のある生徒会活動や文化祭・学校行事が行われています。特に部活動では、今年もバドミントン部、特設陸上・駅伝部で県大会出場を果たす活躍が見られました。



上・中学校の文化祭・清流祭で披露した創作ダンス
下・生活科・総合学習発表会で「浦安の舞」を舞う小学3・4年生。その歴史や伝統についても発表しました

上・教室を飛び出す体験型・行動型「ふるさとのみみ科」の学び
下・中学生は十日市祭でよさこいを披露しました



浪江町では、2014年4月から新たに津島小学校が再開し、児童は二本松の浪江小学校内で共に学んでいます。

浪江小・津島小・浪江中の3校では、郷土を知るさまざまな体験をもとに「ふるさと学習」に取り組んでいます。大堀相馬焼体験、十日市への参加等から、子どもたちに郷土を大切にしようという心が育っています。さらに自分の夢や志を大切に、力強く生きていく子どもの育成を目指しています。

※大堀幼稚園、刈野幼稚園、競世橋小、請戸小、大堀小、刈野小、浪江東中、津島中は休業中。

浪江町

浪江・津島小、浪江中

郷土を大切に 心を育む



上・双葉、双葉翔陽、富岡高校の3校で合同球技大会を行いました
下・浪江高校の仮設校舎



双葉郡内にあった5つの県立高校(双葉・双葉翔陽・浪江・浪江津島・富岡)の生徒たちは、本来の場所から離れた仮設校舎等のサテライト校に通い、各校の特色や伝統を生かした学習や部活動、体験活動などを行っています。

なお、2015年4月には、先進の学びで双葉郡の復興を支え、社会に貢献する人材の育成を目指す新しい高校「ふたば未来学園高校」が広野町に開校します。双葉郡の他の学校とも連携して、さまざまな活動を行います。

県立高校ほか

双葉高、双葉翔陽高、浪江高、浪江津島高、富岡高、富岡養護学校、ふたば未来学園高

未来のリーダーたちが 育っています



※富岡高校(三島長陵高校サテライト)は、静岡県三島市で開校中。ふたば未来学園高校(三島長陵校舎)は2015年4月開校。

葛尾村

葛尾幼稚園、葛尾小、葛尾中

幼・小・中 みんな仲良く

葛尾村立葛尾小・中学校は、現在三春町の旧要田中学校で再開して2年目になります。幼稚園もすぐそばに開園しているため、学習発表会を合同開催するなど、幼・小・中が連携して、教育活動を展開しています。

郷土愛を育て、郡の復興に向けた「ふるさと創造学」の充実を目指しています。小学校では村の歴史を伝える人形劇・葛尾大尺物語の上演やみそづくり、中学校では伝統芸能・三匹獅子舞や郷土料理づくりなど、地域の方々の協力を得ながら体験活動を行っています。



上・三春校の校舎
下・幼小中合同で開催した学習発表会「かつらおスクールフェスタ2014」。今年度も地域の方々も招き、劇やダンス、合唱を披露しました

楢葉小・中学校は現在、いわき市の中央台仮設校舎で開校しています。本来の4分の1程度の生徒数ですが、教職員・生徒・保護者が一丸となり、明るく夢のある学校、夢が実現できる学校を目指して、日々の教育活動に取り組んでいます。

毎朝のスクールバスでの登校に1時間かかる子どもがいるなど、精神的・体力的な負担は多々ありますが、個々に応じたきめ細かな指導を大切に、一人ひとりの学力、そして体力の向上に努めています。

楢葉町

あおぞらこども園、
楢葉南・北小、楢葉中

「夢」を描きながら、 強く育とう

上・見晴らしのよい高台にある校舎。隣接するいわき明星大学との連携も進めています
下・体力向上のため、日々の活動に運動を取り入れています



双葉町

ふたば幼稚園、
双葉南・北小、双葉中

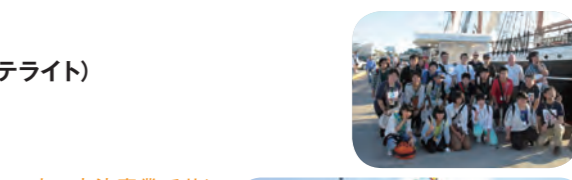
新しい校舎で、 先進的な学びを

2014年4月、震災後3年ぶりに双葉町立幼稚園・小学校・中学校が再開しました。8月には待望の仮設校舎が完成し、2学期から充実した学校生活を送っています。

現在、幼稚園2名、小学生6名、中学生8名の計16名が双葉町立学校で学んでいます。少人数教育のもと、コンピューターなどのICT機器を使用した授業や、外国語教育、そして伝統芸能や仮設住宅訪問などの体験活動に力を入れています。また、教育相談など、保護者の方々と連携を大切にしながら、日々教育活動に励んでいます。



上・学習発表会「梅檀祭」では、双葉町の標準梅檀太鼓を披露しました
下・いわき市錦町に完成した仮設新校舎



上・交流事業でサンディエゴを訪れた中学3年生。地元高校生らとの交流や、再生可能エネルギーに関する学習を行いました
下・元気にっばいの小学生。船を模した校舎からは海が見えます



広野小・中学校は現在、「ふたば未来学園高校」の開校に伴って、小学校の校舎で共に学んでいます。

小学校では、特産のみかんづくりの体験活動を再開しました。役場の方の協力を得ながらジュースづくりに挑戦し、美味しさをPRするためにラベルも作成しました。中学校では、「学び合い」と「交流」を大切に教育活動を進めています。今年度は日米の草の根交流サミットに参加するため、米国・サンディエゴを訪問しました。

広野町

広野幼稚園、広野小、広野中

特産品づくりや訪米など活動的！

「ふるさと創造学」取り組みレポート

双葉郡8町村の学校は2014年度より、ふるさとに関わる課題解決型・探究的な学び「ふるさと創造学」をともにスタートさせました。目指すのは、地域総がかりで、子どもたちに未来を切り拓く強さを携えた、「生きる力」を育むこと。

伝統文化の体験活動や、地域の人々との交流で気づいたまちの魅力を発信したり、復興に尽力する人に話を聞き、地域が抱える課題の解決策を考えたり。それぞれのまちの特色を生かし、地域の方々と協力しながら、総合的な学習の時間を中心に各校の創意工夫のもと取り組んでいます。

大熊町立 大熊中学校

地域の人々のリアルな復興課題に向き合う 中学生視点で町へ提案

大熊町の今と未来を考える上で、避けて通れない原発事故と放射線の問題。町民同士の絆づくりや、風評被害の払拭、地域の食文化の継承、そして復興に希望を持つには……。中学生に出来ることは、一体何だろう。

大熊中学校の「ふるさと創造学」では、復興に携わる大人たちが日々抱える課題に、生徒一人ひとりがテーマを持って正面から向き合っています。自ら課題を見つけ、必要な情報を集めて分析し、解決方法を考える。一連の取り組みを通じて目指すのは、探究的な学習の仕方を身に付け、課題解決力を育てることです。

町の現状を知るために、役場の職員を招いて復興ビジョンについて解説をしてもらったり、家族やまわりの人に話を聞いたり。「県外に避難した友達とのつながりが途絶えてしまっている」「うちのおじいちゃんは、畑仕事ができず元気をなくしている」「町に戻る希望を持ってない町民が多い」。生徒たちは、町の復興課題や、身近な人の胸の内にある思いに気づき、「こうあってほしい」という理想と現実のギャップにぶつかります。先生たちは、生徒一人ひとりが行き着いた課題から、テーマを設定し、考えを深めていけるよう寄り添ってきました。

年間を通じて研究した成果は、各自プレゼンテーションやレポートにまとめます。2014年度は、文化祭等での発表に加え、第二次復興計画の策定を控えた町長や役場の幹部職員、議員、復興計画検討委員へ向けた提言も行いました。

1年生のグループは、県内外に避難する町民の交流事業「大熊っ子、みんな集まれ!」の参加者が減っていることに課題意識を持ち、校内アンケートを取ったり役場に話を聞いたりしながら、企画の改善案をつくりました。2年生のグループは、福島県産の農産物の売り上げ回復と地域の食文化継承をテーマに、大熊町と今住んでいる会津若松市の特産品を活かした「復興定食」を考案。3年生は、原発事故からの復興に、地域の人々、そして全国や海外の人々が希望を持てるようにと、放射性廃棄物のよりよい最終処分方法や、浜通り見学ツアーの企画などをテーマに研究しました。

町長や役場の幹部職員・議員・復興計画検討委員を前に、各学年代表が研究成果を発表しました



発表に使ったプレゼンシート



校内では生徒それぞれの研究経過を報告し合っています

研究テーマ
【原発事故からの復興に希望を持ってもらうには】
浜通り見学ツアーを企画し、大熊町のために働いている人たちの姿や県の現状を、**全国や世界に発信**できればと思っています。

3年生・鈴木末奈美さん

課題を正しく捉え、情報を判断・選択し、**自分自身で考えて解決**への道筋を見つける。これらは、これから生きていく上で大きな力になると信じています。

小野田敏之 校長

発表を聞いてとても感動しました。子どもたちの頑張っている姿は、我々にとって**大きな希望**です。

渡辺利綱 大熊町長

研究テーマ
【県内外に避難している友達との絆を深めるためには】
交流イベントの参加者が減っている**原因を探り**、日帰り・宿泊を選択可能にする、交流時間を増やすなどの提案をしました。

1年生・半杭奏人くん 佐久間香耶さん

研究テーマ
【福島県産の農産物の売り上げ回復と地域の食文化の継承】
双葉郡と会津若松の**郷土料理を調べて**「復興定食」を作りました。カロリー計算をしたりして栄養面も考えています。

2年生・齋藤遥さん 吉田望愛さん 工藤亜美伽さん 北村梨花さん 前内直哉くん 吉田有希くん

研究テーマ
【大熊町を最終処分場にしないためのよりよい最終処分の研究】
処理できないものでも経済的な利益のために作ってしまうというのは、**環境破壊**にもつながるということを、感じています。

3年生・阿部朱也香さん

富岡町立 富岡第一・第二小学校

「私たちの声」を伝えるラジオ番組作り

富岡キッズステーション

富岡第一・第二小学校の5年生は、「ふるさと創造学」でFMラジオの番組作りに挑戦しています。きっかけは、同校を取材に訪れた富岡町災害臨時放送局「おだがいさまFM」(*)との出会いから。子どもの声を身近に聞く機会が減っていた町の人々に向け、子どもたちが主役の番組をつくれなかと考えていた放送局と、伝え合う力を育てたいと考えていた先生たちの思いが重なり、小学生によるラジオ番組作りの授業が始まりました。

番組名は「みんなで伝える富岡キッズステーション」。「私たちの声を伝えよう」というテーマのもと、子どもたちがアイデアを出し合い、考えた企画は、全校児童の好きな歌をランキング形式で伝える「富岡子どもMステ」と、自分たちが知っている富岡と昔の富岡を知る地域の人々に話を聞き、違いを比べる「富岡今昔物語」の2つでした。

富岡町の名所・夜ノ森の桜のトンネルとえびす講市を題材にした「富岡今昔物語」の番組作りを通じ、トンネル近くの田んぼに落ちてどろどろになった友達がいなかったことや、えびす講市でお母さんに連れられてわたあめを買ってもらったことを思い出した子もいました。富岡町での思い出や理解を深め、ふるさとを大切にしたい人の思いにふれた手ごたえを感じた一方、子どもたちには課題意識が芽生えます。

「本当に、自分たちの今の様子を伝えられているのだろうか」「聞いている人が何か感じ取ってくれているのだろうか」。そんな疑問から、2回目の番組作りでは、「富岡子どもMステ」を他学年の悩みに5年生が答える「富岡子ども相談室」へと衣替え。また「富岡今昔物語」では、仮設住宅に住むお年寄りに今と昔の学校の違いをインタビューし、聞いている人々に富岡に住んでいた時のことを思い出してもらえるようにしました。

これまで自分の思いや考えを表現することに、苦手意識を持つ子が多かったという5年生。学校外の人々に伝える経験を通じ、教科学習での話し合いや発表に自信を持つなど、他の学校生活にもよい影響が出てきています。自分から課題を見つける。相手のことを考えて、自分の思いや考えを伝える。そんな力が着実に育っています。

(*) 富岡町臨時災害放送局「おだがいさまFM」とは?
震災直後、ビッグハレットふくしまに誕生したミニFMを前身に、郡山市の仮設住宅内にある富岡町社会福祉協議会・おだがいさまセンターに開局したラジオ放送。町の情報や催し物の告知など、全国の富岡町民に向け、避難生活に必要な情報を発信しています

豊富なアイデアで、期待以上の番組になりました。楽しく作るだけでなく、「聞いている人に届いているだろうか」というところまで考えて取り組んでいる。まさに私たちも日々考え悩んでいることです。

番組制作をサポートした「おだがいさまFM」久保田彩乃さん(後列右)

以前は二世帯・三世帯一緒だったのが、今は別々に暮らしているお年寄りも多い。自分の孫に接するように、皆さん顔をほころばせて答えていました。番組を聴いたら、たくさん出た話をうまくまとめたね。

取材に協力した「富岡町さくらスポーツクラブ」佐藤勝夫さん

番組収録をする子どもたちを見て、社会のために働く、**彼らの将来の姿**を想像しました。多くの方の協力で、学校内だけではできなかったことが進んでいます。地域へ目を向け、子どもたちの意欲もぐっと高まりました。

富岡第一小学校・新井川美千枝 校長

番組作りに「ふるさと創造学」の側面が加わったことで、「**全国にいる富岡の人々に伝えていこう**」という意識が強くなったと思います。先生方の努力で、発信に終わらず地域の方々とのつながりもできました。

富岡第二小学校・伏見伸一郎 校長

健康体操に集まった、地域のお年寄りにインタビュー。「昔の給食は脱脂粉乳が出てたんだよ」「脱脂粉乳って何ですか?」自然と会話が盛り上がるように

「今のわたしたちの姿」が伝わっているかよく考え、**課題を見つけて改善**する力がついてきました。

富岡第一小学校・5年生担任 小松朝美先生

クラスの中だけでなく、他学年、地域の方々など、**さまざまな人と関わる**ことで、伝える力がついてきたと思います。

富岡第二小学校・5年生担任 高地恵先生

地域のラジオ局「おだがいさまFM」の方から、番組制作の方法を教わりました

桜のトンネルとえびす講市を題材を選び番組を作成。自分たちが覚えていることをまとめ、ゲストに話を聞いて知ったことを書き足して理解を深めました



「さあ、富岡今昔物語の時間がやってきました」。緊張せず話せるように元アナウンサーから指導も受け、たくさん練習して収録しました



富岡第二小学校・5年生担任 高地恵先生



学びの成果を地域へ発信!

第1回ふるさと創造学サミット開催

12月20日、「ふるさと創造学」に取り組む双葉郡8町村の小中学校が一堂に会し、今年度の学習成果を発表する「第1回ふるさと創造学サミット」を開催しました。会場となった郡山市のビッグパレットふくしまには169人の子どもたちが集まり、各校・教育委員会の先生方や保護者など230人以上の方々が来場くださいました。

各校はそれぞれ町村の現状や特色を踏まえ、学んだこと・考えたことを発表。小学校では体験活動でまちの魅力にふれたり発信したりする活動が目立ちました。中には、食の安全や原子力に頼らない生活について発表した熊町・大野小のように、復興課題に挑戦する学校も。中学校からは、職業体験や地域の人々へのインタビュー等を通じ、まちの未来や課題を考えた学習過程や、自分たちにできることを実践した活動が報告されました。

各校の発表の後には、「ふたばの教育復興応援団」メンバーの乙武洋匡さんが「困難を乗り越える力」をテーマに講演。「変えるのが難しい、大変だねと言われる状況にある中で、僕とみんなは似ている。大事なのは状況をどうとらえ、どう行動するかだ」と、障害者としての自身の体験を交え熱いメッセージをいただきました。



楢葉南・北小は、地域の人が大切にしている神社や祭りなど、交流を通じて知った町の良さを発表。楢葉中は、環境をテーマに町の未来の姿について提言しました



町の魅力を紹介する創作カルタを発表した広野小。元気に太鼓も披露しました。広野中は楽しいクイズ形式で町を紹介



浪江・津島小は、「ふるさとのみえ科」の活動を報告。浪江中は、職業体験で町のために働く人の思いにふれ、課題意識を深めた過程を語りました



村名の由来や歴史を描く「葛尾大尽物語」の人形劇を披露した葛尾小。葛尾中は地域の方々へインタビューした活動などを紹介しました



「自分たちができること」を考え実践した学習過程を語った双葉中。双葉南・北小は、映像を交えたテレビレポーターのような発表で会場を沸かせました



川内小は自分の村のよいところについて大きな声で発表し、「川内村が好き」という気持ちを伝えました



お楽しみタイムとして、教員を目指す福島大学の学生の皆さんが、O×ゲームで盛り上げてくれました

未来へ、わくわくがいっぱい!

「ふたばの教育」活動ニュース

他校の友達や地域の人々の前で発表したり、教室を飛び出して体験したり。地域に学ぶ実践的な教育で、きらきら光る子どもの目。ぐんぐん伸びる希望の芽。双葉郡の友達や先生方の、元気いっぱいな活動の様子をお届けします!



ふたばの中高生が隠岐諸島へ! ふるさと創造学研修旅行 in 海士町



島根県の北60キロ、日本海に浮かぶ隠岐諸島の一島一町のまち・海士町へ

12月25日~27日、川内中学校・広野中学校の中学生と、楢葉町・大熊町出身の高校生計9名が、島根県海士町へ研修旅行に訪れました。海士町は、全国から若者が移り住み、国内外から視察が訪れるなど、地域再生の分野の先進地として注目を集めています。

「復興へと動き出している町が、どうしたらよりよい町になるか、具体的に何ができるか学びたい」「地域再生の仕方は違うが、海士町の取り組みを自分の住む村に置き換えて考えたい」。それぞれに思いを持って参加した生徒たち。2泊3日で、島唯一の高校・隠岐島前高校の「地域創造コース」で学ぶ生徒との交流・意見交換を軸に、町の活性化に取り組む方々を訪ね歩いたり、町営塾での授業「夢ゼミ」を体験したりしました。

島の魅力を伝える観光プランの立案で始まった隠岐島前高校の取り組み。地域を巻き込み企画を実現させたことから発展したといえます。神楽の継承、島の食材を使ったレシピ開発、ジオパークとなった地域の魅力を発信する映像制作など、課題意識と地域への誇りを持ってプロジェクトについて語る同世代の姿に、生徒たちは大いに刺激を受けて帰ってきました。



島の食材を使ったファーストフードレシピの開発など、隠岐島前高校の取り組みを学び、双葉郡の生徒も自身の町村や活動の紹介をしました

「地域の復興やまちづくりには、自分たち中学生にできることは何か、学びたい」。それぞれが未来への思いを持って参加しました



「また会おうね」。「福島に行くよ」。今後の交流を誓ってお別れ

海士町を丸ごと味わえるメニューを考案したよ!



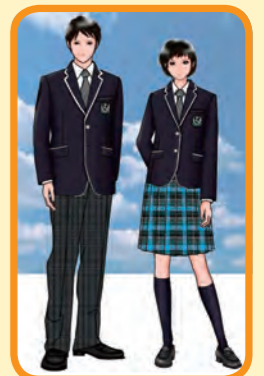
制服と校章も決まりました

「ふたば未来学園高校」いよいよ開校!

ふたば未来学園高校は、地域や日本、世界に貢献できる人材の育成を第一目標に掲げる、新しい中高一貫の高校です。この4月、広野町にまずは高校が開校します。

制服は、「ふたばの教育復興応援団」の一員である秋元康さんを介して、AKB48のステージ衣装制作にも携わるクリエイティブディレクター、茅野しのぶさんがデザイン。選考は、「福島教育フォーラム」出席者や双葉郡内の中学生にアンケートを実施。耐久性や着心地にも配慮をし、スマートで品良く、生徒たちに誇りと自信を持ってもらえる制服をとデザインされました。

校章は、同じく応援団で、数多くの広告やCMを手がけるクリエイティブディレクター、佐々木宏さんのデザイン。校章の中心に配した「未来」の文字は、最先端の建築物が築かれていくようなイメージを連想させ、夢や希望を表します。「未来」の下に配されたアンダーラインは、「福島の大い」を表し、「情熱と活力ある福島」の願いを込めて赤で表現しています。



グループごとに話し合った指導計画の改善案を、全員でシェアしました



「課題意識を育てるには、どんなきっかけがあれば?」 試行錯誤し、指導計画を考えました

子どもたちの「生きる力」を育むには?



町村も役職も越えたグループで指導計画の改善案を考えました

先生たちも学んでいます!

「ふるさと創造学」 教員研修会

12月1日、双葉郡教育復興ビジョン推進協議会と双葉地区教育長会が主催し、「ふるさと創造学」の教員研修会を実施。双葉郡8町村の小中学校と福島県教育委員会から、53名もの先生方が参加し、会場となった富岡町教育委員会の会議室が満席になりました。

富岡町・双葉町の教育長らから、「ふるさと創造学」が生まれた経緯や趣旨のお話の後、文部科学省から田村学教科調査官を招いて、多くの学校が「ふるさと創造学」に取り組む時間としている総合的な学習の時間についての講義、実際の指導計画を考えるワークショップを行いました。

震災と避難生活の経験を、生きる力に変えていく。そのために今、子どもたちが何を学び、どんな力をつけていってほしいか。先生たちも日々真剣に取り組んでいます。